

市民が水都のまちづくりに参画するしくみ（プラットフォーム）をどう創るか。

タイプ	イメージ図	説明	備考	
タイプA 代表委員 方式		行政・経済界からなる会議体に市民代表委員が加わる。	<ul style="list-style-type: none"> ・市民代表委員の個人的意見となったり、特定の団体の利益代表となる恐れもある。 ・市民側と遊離する恐れがある。 	いわば「点」での市民参加
タイプB 市民会議 方式		市民・NPOが会議体（市民会議）を結成。行政・経済界の会議体とのコラボレーションにより市民参加を実現。	<ul style="list-style-type: none"> ・行政 vs 市民の対立構図となる恐れがある。 ・第二、第三の市民会議が発生すると混乱を招く。 	いわば「線」での市民参加
タイプC ワークショップ(WS) 方式		協働の場（例えばワークショップ形式）で市民・NPOの提案を出す。場の設定には行政も、関与もしくは支援する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップでの提案を反映するしかけづくりも必要。 	いわば「面」での市民参加

（注）タイプA、Bは備考欄に記載したような問題点がある。タイプCのワークショップ方式を2012年には社会実験として実施することを提案する。